

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 楽苑
(ユニット名)	楽 2棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県島原市有明町湯江乙1138.
記入者名 (管理者)	橋本 志保
記入日	平成 21年 2月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	「楽苑は楽しい苑(ところ)、楽しくなければ楽苑じゃない」職員及び利用者、家族に至るまで分りやすい理念を掲げている。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	事務所、玄関に、理念を掲示し、常に笑顔をやさめよう心掛けて、実践している。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	玄関の目につきやすい所に掲示してあり、入所時など、利用者・家族の方にも「楽しく暮らしていきましょう」との対応・声かけを行っている。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	近隣の小学生が遊びに来たり、自治会主催の敬老会を通し、気軽に声をかけてもらえるよう努めている。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	老人会、婦人会、近くの保育園児の方々が慰問に来てくださったり、また近隣の保育園に招待されたりと、交流を行っている。地域の文化祭や、福祉祭り等、出し物や踊りで喜んでいただいている。		地域での文化祭で出演する時は、利用者の方も一緒に外出し、面識のない地元の方々から、「頑張ってるね」と気軽に声をかけて頂けるようになった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>敬老の日には各自治会主催の敬老会に参加し、演芸を披露している。また、地域の方を対象とした「健康体操」を月2回行っており参加人数も増え好評である。</p>		<p>健康体操を通してホーム見学も行っている。また、台風の次期には地域の一人暮らしの方への声かけ、訪問を行い、災害時の非難場所として利用して頂く等地域貢献に努めている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価を実施することにより、介護支援をあらためて考えることができ、意識の向上に努めている。</p>	○	<p>ヒヤリハット、事故報告書、改善シートなど一年間の記録を見直し振り返ることにより、更なる介護支援ができるよう努めていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度、町の代表者・市町村圏組合・利用者家族を交えて会議を設け、現状報告、サービス内容について話し合い意見交換を行っている。食事の試食会等も行い、意見を伺っている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の文化祭、健康福祉まつり、ホーム独自の健康体操等により、公共施設を活用させて頂いているので、顔を合わせる機会がありサービスの質の向上に活かしている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会で学ぶ機会を設けており、利用者やその家族の必要性に応じて、相談、話し合いで活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員にて「虐待」は絶対にあってはならないことと理解し、行っていない。言葉かけや、態度一つにしても利用者の方が傷つかないように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には事前にホーム内を見学して頂いたり、家族の方や利用者さんと面談等で十分な説明を行い、どういった支援を望まれているのか話し合い理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情等日常の言葉や態度等で感じとり、利用者の話しを聞く機会を設け、ミーティングや申し送りなどで解決できるように努めている。</p>	<p>ミーティングや申し送り以外でも専用の苦情処理ノートを作成しており記録している。苦情を聞くだけでなく職員全員で解決策を話し合い、改善できるよう改善シートを作成しサービスの向上に努める。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態等、定期的に面会に来られたときに随時報告している。緊急の場合や、直ぐにでも報告しておきたいことなどは、直ぐに連絡できる用にしている。定期病院受診された際なども電話報告している。</p>	<p>利用者の手つくりの絵葉書等、暑中見舞いで家族に郵送したり、手作りのうちわや絵を額縁に入れ居室等に飾り、利用者や面会に来られた家族に喜んで頂けるようにしている。利用者作成の絵手紙が長崎新聞に掲載され、利用者や家族の方が大変喜ばれた。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見、不満、苦情等はしっかり聞き入れ、できる限り、希望に添えるよう努めている。職員だけではなく、家族の方も一緒に介護支援をして頂けるよう努めている。</p>	<p>家族からの一方的な不満や苦情を聞くだけではなく、どうしたら改善できるか家族の方と一緒に考えホームに任せきりにならないように一緒に介護支援をしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のミーティング、毎朝の申し送り、他にも、困難事例などその都度意見を出し合い反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯や、日にちがわかっている場合などは、事前に勤務調整を行っており、介護支援するうえで、支障がないよう努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、職員の移動はほとんど無い。利用者さんも職員を娘や孫のようにかわいがってくださり、気軽に言い合える関係を作っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じ勝因に研修を受ける機会を設けている。研修報告を行い職員の質の向上、意欲の向上に努めている。		研修を受けた職員より報告を受け勉強会をすることにより、他の職員も良い刺激を受けている。研修に参加した職員も更なる介護支援を目指し、仕事への意欲も強まっている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や、講習会を通し、交流を持っている。互いのホームの意見交換などでサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスが溜まらないように、報告も兼ね、小さな事でも話し合い、聞き合うようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の能力を把握し、経験・能力にあった研修の参加を促すことにより、各自の意識向上につなげている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一日でも早くホームでの生活に慣れてもらい、日常での本人との対話や、関わりを多く持つことで、本人の不安に思っていることや、願っていることなどを聞く機会を作っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでの本人の生活状況、病歴、家族の不安や要望を伺い、安心して利用していただくために十分に説明を行い、その方に一番いい方法にて介護支援ができるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、何が必要か、どういった支援をするのが一番良いか、よく話しあい、対応するよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格、今までの生活スタイルを踏まえ家族と相談しながら、どこまで支援をしていいのか検討し、他の利用者や、その場の雰囲気にならぬよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が正月に着物を着る際に、着付けを習ったり、手作り饅頭や、七夕作り等、利用者の方と一緒にすることで、昔の知恵を学んだり、共に支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会等には出席してもらい、一緒に祝うことで、お互いに喜んでもらうなど、職員だけではなく、家族も共に色々なことを共有し本人を支えていけるような関係を築いている。		誕生会や行事などには、その都度ご案内をしている。参加しやすいように、休日に行事や誕生会を行っている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人は勿論、家族とも会話の場を多く設け、時には本人と家族の間に間接的な役割を果たし、より良い関係が築いていけるよう支援している。		正月、帰省等、本人さんは帰省したい一心で、職員に口添えしてほしいと言われたことがあり、本人と家族の間に入り、一番いい対処方法を一緒に考え、対応している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院や床屋などいつでも気軽に利用できるように、また知人や、友人の方達等気軽に来ていただけるように努めている。		知り合いが利用しているデイサービスを訪ねて行かれたり、外出先で久々に会った昔からの友人に写真や手紙を送ったりしている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、良い関係が築けるよう、レクリエーション等でも孤立せず関わりがもてるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	暑中見舞いや、年賀状などにてホームの近況報告を行っている。つきあいを大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を通じて、できる限り、本人の思い、要望を聴いて把握している。困難な場合は、態度や仕草、普段の様子などから把握し、介護支援の検討をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人の生活歴、生活スタイル等、家族の方からよく伺い、本人とも対話を多く持つことで今後に活かせるよう努めている。また、生活歴を記録する書類も作成している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の生活の様子をカルテに記録している。また他の職員が少しの変化にも気がつけるよう、内容が直ぐに分るよう努めている。		カルテ記載時も重要な項目には、色を変えたり、囲むなどして誰が見ても分りやすく記入している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや願いを日常の生活の中で見だし、本人の意向にそったケアプランをたてている。計画作成時には、家族や職員間で話し合いそれぞれの意見やアイデアを出し合い作成している。	○	利用者本意のプランが、職員本意のプランになりがちな為、職員間での話し合う機会を多くもち、利用者の思い、願い等を感じ取り見だし、ケアプラン作成に努めたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度ケアプランの見直しを行っている。状況、状態に急激な変化が生じた場合は、直ぐに本人、家族、職員間で話し合い、現状にあった新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々のカルテに日常の様子、気づき、ケアの内容、実践記録等記入している。他の職員とも情報を交換、共有しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>		<p>個々のカルテにも月初めの一番最初にの覧に本人のケアプランを記入し、目立つように色等を付け、また、全利用者のケアプランを表にまとめることにより、全職員が内容を把握できるようにしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスが隣接しており、希望時にはマッサージ機などを利用されるなど気軽に利用されている。また、体操の資格をもった職員がおり、健康体操を取り入れ支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域の消防署の方達と協力しながら避難訓練を実施している。中学生のボランティア活動も毎年受け入れている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>デイサービスが隣接しており、本人の希望時には、マッサージ機等、利用できるよう支援している。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>			
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前からのかかりつけ医を大切に、受診できるよう支援している。また受診内容もカルテに記載しており全職員把握できるようにしている。</p>		<p>家族に病院受診やいろいろな気づき等を連絡した場合、連絡記録を作成しており誰がいつ、連絡したのか一目でわかるよう、連絡漏れが無いようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の医療機関と提携しており、協力医に相談したり、利用者急変時には直ちに治療を受けられるよう体制を整えている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日のバイタルチェック・看護師に本人の状態を診てもらい、相談や指示を受け、日常の健康管理に努めている。		看護職員連絡ノートを作成しており、利用者の健康状態等の異変や、気づきを記載している。職員全員が把握し、直ぐに相談、指示が受けられるようにしている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、病院との情報交換や相談をより一層密にし、早期退院につなげている。随時面会に行き、近況報告等を行い、安心して過ごしてもらえるよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方については、本人、家族、かかりつけ医、職員間とで相談、話し合い、全員で考えている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合での対応「できること、できないこと」は、全員で考え話し合い見極めているつもりだが、急な事態に備えての準備や事柄をより一層職員で考えていきたい。	○	急変した時の対応、救急車、家族への連絡等チームで連携し直ぐに対応しているが、退院されホームに戻ってこられた時の対応が難しく、今後の対応をどうしていくか、相談、話し合い等を持ち進めていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの日常生活の様子や、食事内容、職員とのかかわり方、ケアの内容など十分な情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた言葉かけ、今思っている現実など、否定せずその人に合わせた対応に努めている。毎朝の申し送りでも利用者の名前ではなくイニシャルで報告するなど、プライバシーの確保に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>難聴の方には筆談やゼスチャーで伝えたり、その人に合わせた言葉掛けや行動で行っている。利用者の自己決定を引き出しながら支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースを大切に、朝の苦手な人にはゆっくり起きてもらったり、希望を受入れ、その方の一番いい方法にて希望に添えるように支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>年数回無料で美容師さんに来て頂き本人の希望にて、カット、パーマをされている。毎月2～3回理容師さんも来られており、本人の希望された時に数名の方がカットされている。何名かの利用者の方は、入所前からの行きつけの理容、美容室に行かれており、送迎も行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>透析をされてるかたや、糖尿病の方がおられるので、制限食の中でも食事を楽しんでもらえるよう工夫し提供している。また、食事の準備や、配膳を一緒におこなったり、饅頭作り等では教えてもらいながら取り組んでいる。</p>	<p>デザートなどコーヒーカップにいれて提供するなど、見た目や器の工夫、盛り付けの工夫等、考えながら提供している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>そばがダメな方はうどんにしたり、肉が嫌いな方は魚にしたりとその人に合わせた食事を提供し、楽しんで食べてもらえるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけトイレで排泄してもらえよう利用者にあわせた排泄パターンをつかみ本人に聞いたり、トイレ誘導など行い支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴可能であり、入浴前に本人に伺い入浴していただいている。また朝風呂や、一番風呂など希望される時は状況に応じて対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ホーム内の至る所に椅子やソファ、テーブルが置いてあり、椅子に座って日向ぼっこやお茶を楽しんだり、いつでもソファに横になって休めるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花好きな方はプランターを用意し苗植えや、鉢植え等の世話をされる。また洗濯ものは各自にて干され、たたまれる。簡単な自室の掃除も行ってもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に応じ本人や家族管理にしている。買い物に出かける時などは、小遣い程度のお金をお渡しし、自分でお金を出して支払うことができるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ、買い物に行きたい時などは、事前に計画を立て出かけられるよう支援している。気候が良い時は、近くの公園にドライブに行くなど外出支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春や秋の行事には、花見や紅葉見学に出かけたり、また、家族の方と一緒に食事や温泉へ行かれたりと出かけられる機会を作っている。		花見などの行事の時は、手作り弁当を持っていったり、また外食等して利用者の方に喜んでもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きなときにいつでも電話をかけたり、手紙を出したりできるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	廊下には椅子やテーブルを置き、家族の方や馴染みの方達が気軽に来られ、自室だけでなくホーム内でも居心地良く過ごしてもらえるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わないケアに取り組んでいる。目を離せない利用者の方は一人にしないよう、必ず職員が付き添うようしている。緊急やむを得ない場合は、職員全体での話し合いのもと本人や家族に対して説明を行い、十分な理解を得るよう努め、了承を得、書面にてサインを頂いてから行うようしている。		緊急やむを得ず身体拘束を行ってしまった場合についても、常に観察、再検討し、要件に該当しなくなった場合には直ちに解除するようにしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけていない。代わりに玄関にセンサーを設置しており、センサーの音を利用してさりげなく見守っている。時には一緒に同行することで鍵をかけないよう取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	目の離せない利用者の方はリビングにて昼夜過ごしてもらい、常に職員が見守っている。自室で過ごしている利用者の方は定期的に居室を訪問し様子を把握できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて個人管理の物を、ホーム内で一時預かり保管している。		肌着や、下着類をはさみで切られていたことがあり、ホームではさみを預かり危険防止に努めた。家族にはその旨連絡報告している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルがあり、職員のすぐ目に付く所に掲示しており内容も把握している。事故防止の為の研修会や、防災避難訓練など、日々事故が起こらないよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	病院とも直ぐに連絡が取れるようにしている。応急手当のマニュアルがあり全職員でいつでも対応できるよう日頃から話し合い等を行っている。		利用者の生年月日、年齢、住所、かかりつけ医、既往歴等の一覧表を作成しており、救急車搬送依頼の時、直ぐに受け答え、対応ができるようにしている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練を随時実施しており、全職員実行できるよう取り組んでいる。地域消防団にも協力を得ており、通報装置にて、消防署、地域消防団に連絡が行くようになっている。	○	火事になった時のシミュレーション内容を作成しており、出勤時間にて役割分担を決め、対処方を随時訓練している。気候が良くなったら利用者も参加しての訓練をしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族が来られた時には必ず日常の健康状態、生活状況を報告し、本人に起こりうるリスクについて家族と相談し対応策など話しあっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックは勿論のこと、その日の生活態度で少しでも変化があれば、直ぐに病院受診を行っている。変化や異変を見逃さないよう日々努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬ファイルを作成しており、個々の用法、用量を把握している。薬は全てホームにて管理しており、服用の際にも必ず見守り確認をしている。		血糖値測定、インシュリン注射をされる方がおられ、必ず付き添い見守りで対応している。全職員が、測定方法、注射の打ち方を把握している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成しており、毎日確認している。食事や水分量も考え、腸の働きがよくなるようリハビリ体操を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがい、歯磨きは一人ひとりに合わせた支援を行っている。入れ歯の方にはポリドントケアも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの持病なども考慮しながら減塩食にしたり、病院の指示にて水分を規定量摂取してもらうなど、その人に応じた支援を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の対応マニュアルがあり、手洗い、うがい、アルコール消毒、オスバン消毒など日々行っている。面会者の方にも玄関にアルコール消毒を置き協力をして頂いている。インフルエンザ等の流行する季節には、あらためて勉強会を行い感染予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板は毎日洗濯消毒を行っている。台所は常に清潔に保ち食材も何日も保管しないよう、使う分だけ買い物にいくなどして管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花や植木などを植え、椅子やテーブルを置くことにより、親しみやすい雰囲気作りをし、安心して出入りできるよう工夫している。		気候の良いときは、野外で食事を楽しんだり、日常と違う雰囲気を楽しんでもらっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が木のぬくもりで囲まれており家庭的な空間を築いている。リビングには長椅子、ソファベットの置いたり、気軽に利用でき、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルや椅子を置いており、利用者同士でトランプをしたり、談話ができる場所がある。天気の良い日は廊下の椅子に腰掛けられ、日向ぼっこをされたりと思いいいに過ごされる。		利用者の一人が日向ぼっこをされていると、他の利用者の方も集まってこれ、お菓子やお茶など持ち寄り、一緒に過ごされる場所でもある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	家で使用されていた家具を持ち込まれ、たんすや仏壇、テレ ビ、冷蔵庫に至るまで本人の使いなれた物を使用されてい る。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	24時間空気喚起を行っており、毎朝掃除の時は必ず空気の 入れ替えを行っている。常時アロマオイル等を使用し臭いが 気にならないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	浴室、トイレ、廊下には手すりを設置しており、ベットには自 力で起き上がりしやすいように手すりを設けている。常時ポー タトイレを使用される方や、夜間のみ使用される方など、一 人ひとりにあわせ工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個人にあわせ、できる利用者の方には自分で洗濯物を干し てもらったり取り込んでたたんでもらったり、ゴミ捨ても自分 でしてもらったりと、自立して暮らせるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	裏庭や中庭を設けており、花を植えたり外まわりにはベンチ も設置しているので、野外でお茶の時間を設けたり、花見な ど楽しんでもらっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域主催の文化祭に職員が参加したり、忘年会など色々な行事に利用者の方も参加してもらうことにより、グループホーム楽苑に入所してよかったと思って頂けるよう、色々な行事を取り入れている。日常でも、絵手紙や塗り絵、編み物等、最近では写経の読み書きをする等、利用者一人ひとりの能力を引き出せるような支援に取り組んでいる。